

済生会松阪総合病院を受診された患者様へ

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	超音波検査で良性と考えられた病変の超音波像のデータベース作成
当院の研究責任者	乳腺外科 柏倉由実
他の研究機関および各施設の研究責任者	研究責任者 都立駒込病院 外科（乳腺）岩本奈織子 （代表施設が他施設であれば記載）
本研究の目的	<p>乳腺精密検査において乳房超音波検査は最初に行われる検査である。乳房超音波で病変を検出し、すべて正確に生検すれば、確定診断となるが、要精密検査とされる病変には生検すら不要な良性病変も多く含まれる。多くの研究報告は悪性病変の診断精度であり、良性病変の診断の最適化、推奨マネージメントに関する報告は少なく、臨床現場では検査者、施設によって診断方針が異なる。</p> <p>経験豊富な医師・技師は不要な生検をせずに診断に至っているケースも多く、これら検査者の知見を集約することにより良性病変の適格なマネージメントが可能ではないかと想定し、乳房超音波診断ガイドライン改訂小委員会では作業を進めている。この過程で、良性病変とマネージメントを対比できるデータベースが必要と考え、今回の研究部会の発足をお願いする。</p> <p>後ろ向き、前向きの登録施設での一定期間の症例をシリーズで画像を登録し、適切に撮像されている画像を収集する予定である。それらの転帰を整理し、乳房超音波診断ガイドライン改訂小委員会で、作成中である診断基準と照合する。</p>
調査データ 該当期間	・対象期間：2015年1月～2024年12月 対象者数：超音波検査で良性が疑われた症例 約1000例を想定。
	登録症例において、超音波検査にて推測される疾患と生検